

「高知県橋梁会 平成 30 年度第 1 回研修会」報告

高知県橋梁会理事 武内 豊

土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による、平成 30 年度第 1 回研修会が去る 4 月 23 日に高知市本町の「高知会館 飛鳥の間」で開催された。

研修会では、①橋梁基礎などにおける耐震補強技術について、②土砂災害防止法に基づく基礎調査業務の外業支援システム、③技術士合格体験談、④鉄筋コンクリートの限界状態設計法の 4 テーマの講演が行われた。年度始めの忙しい時期にも関わらず 137 名の参加があり有意義な研修会となった。

■研修会 (13:30～16:50)

開催に先立ち、右城猛会長より本日講演される 4 名の講師の紹介と、法人会員が 50 社になった旨の報告がなされた。また、5 月 14 日にサンピアシリーズで行われる「廣井勇を顕彰するシンポジウムの講演内容や、設立総会、祝賀会の紹介があった。本日の受講者が過去 3 番目に多い人数となったのは、講師への期待の大きさがうかがえると、参加者に感謝の言葉を述べた。



右城会長による開会の挨拶

最初の講演は日特建設株式会社技術本部技術営業部次長恵良桂司氏。「橋梁基礎などにおける耐震補強技術について」と題して、①薬液注入工法（New スリーブ工法）、②新しい注入材料（MX グラウト）、③のり面の補修・補強工法（ニューレスプ工法）の各工法の説明や、施工実績の紹介があった。

(13:40～14:15)



最初の講演をされる恵良次長

2 番目の講演は五大開発株式会社営業部システム営業課次長関谷史郎氏。「土砂災害防止法に基づく基礎調査業務の外業支援システム」と題して、砂防基礎調査業務の効率化を目的としたシステムの紹介があった。

本システムは、内業の作業を行うパソコン上の「内業システム」と、外業時に携帯して情報の入力や確認を行うタブレット上の「外業システム」から構成されており最終成果物の品質向上、手戻りの減少、利益の向上に役立つとの説明があった。

(14:15～14:40)



2 番目の講演をされる関谷次長

断面力、耐荷力の考え方について説明があった。

(15:10~16:40)



4 番目の講演をされ近藤准教授

3 番目の講演は株式会社第一コンサルタンツ技術部長松本洋一氏。「技術士合格体験談」と題して、受験歴 15 回を要し合格した諦めない資格取得の体験談の紹介があった。また、受験期間中の合格への道のりや、何が足りなかったのかを振り返り、弱点の克服方法や技術士試験を通じて学ぶことを、今後技術士を目指す若手技術者に参考になればとの説明があった。(14:40~15:00)



会場の様子



3 番目の講演をされる松本部長

4 番目の講演は高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科の近藤拓也准教授。「鉄筋コンクリートの限界状態設計法」と題して、平成 29 年 11 月に改訂された道路橋示方書の大きな変更点について説明があった。最初に従来の許容応力度法について説明があり、限界状態設計法の



質疑される受講者



司会を担当した武内理事



右城会長、吉田副会長、西川会計による報告

最後に吉田副会長より本日の講演者や参加者への謝辞を述べ、研修会を修了した。



吉田副会長による閉会の挨拶



総会の様子

■通常総会 (16:50~17:20)

研修会終了後、会場を弥生の間に移し平成30年度の通常総会を開催した。正会員50社のうち35社の出席があった。

通常総会では、平成29年度の事業報告・収支決算報告・監査報告・平成30年度の事業計画・収支予算案などの議題が満場一致で承認された。

新入会員は、岡三リビング(株)、(株)建設マネジメント四国、(株)新晃総合コンサルタント、松井建材(有)の4社が紹介された。

■懇親会 (17:30~19:30)

通常総会終了後、会場を平安の間に移して懇親会を開催した。参加者は60名であった。

懇親会では右城会長の挨拶の後、第一コンサルタント矢田部相談役による乾杯の音頭で宴会が開始された。



右城会長による開会の挨拶



歓談の様子



矢田部相談役による乾杯の音頭



吉田副会長による中締め



歓談の様子

■あしがき

研修会の参加人数は、今回も 100 名を超える 137 名の多くの皆様の参加をいただきました。

高知県橋梁会では、今後も研修会内容を充実し、有意義な研修会になるよう活動を続けてまいりたいと思います。会員会社の皆様のご協力を今後ともよろしくお願ひします。